

かかりつけ医はいますか？

かかりつけ医って？

かかりつけ医とは、健康や病気のことを気軽に相談したり、身体に不調があるときにはいつでも診察してくれる、身近な開業医のお医者さんのことです。

かかりつけ医を持つメリットは、継続的に健康状態が管理できることです。日頃から受診していれば、既往症や服薬の状況、家族構成や生活環境を把握したうえで、総合的に判断し、必要であれば病状に応じて適切な病院、診療科を紹介することができます。

日常の診療・経過観察、慢性疾患の治療のためにも、家族ぐるみで診察してもらえるかかりつけのお医者さんを持って、健康管理されることをお勧めします。



では、多摩南部地域病院の役割は何でしょうか？

当院は急性期医療を提供する医療機関です。急性期医療とは、入院が必要な治療や、専門的な検査・治療を行うことです。

そのため当院は、救急の場合を除いて、地域のかかりつけ医から紹介された専門的な検査・治療を必要とする患者さんを受け入れる、紹介予約制の病院となっております。



病気と付き合っていくには、どうしたらいい？

症状が安定した患者さんには、いままでの経過や今後の治療のお願いを記載した診療情報提供書(紹介状)をお渡しして、紹介していただいたかかりつけ医か、日常的に診療をおこなってもらえる先生にバトンタッチします。

そして、日常の診療や経過観察をしていくなかで、改めて専門的な検査・治療が必要であるとかかりつけ医が判断した場合、当院や、より高度な医療を提供している大学病院等を紹介し受診していただくことで、かかりつけ医と急性期医療を提供する病院が連携して、患者さんをサポートします。



入院のときはどうなりますか？

入院された場合、急性期の症状が落ち着いた患者さんについては、かかりつけ医か、日常的に診療をおこなってもらえる先生に治療を引継いでいただいています。

また、症状が安定してもなお入院が必要な患者さんには、連携する病院等へ転院していただき、そちらで引き続き治療をおこなっていただいています。



一人でも多くの急性期の患者さんを受け入れさせていただくために、患者さん、ご家族のご理解・ご協力をお願いいたします。

♪ お問い合わせ先 患者支援センター地域連携部門 ♪

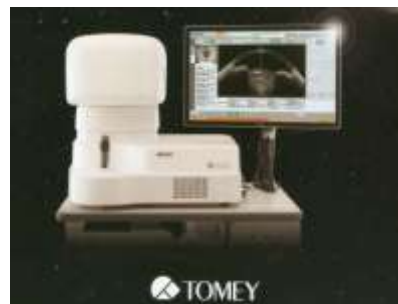
♪ 多摩南三二通信をご希望の方は、患者支援センター地域連携部門までお問い合わせください ♪

今月の医療 眼科



待望の前眼部OCT『CASIA（カシア）2』の導入

今年の3月にTOMEY社製 前眼部OCT（眼圧三次元画像解析）「CASIA（カシア）2」を導入しました。「CASIA2」は患者さんの眼球に直接触れることなく、1310ナメートルの長波長による深い組織深達による測定で、短時間のうちに角膜、前房、虹彩、隅角、水晶体に及び前眼部の画像を明瞭に描出することが可能です。さらに角膜の形状解析にも優れており、角膜の前面及び後面のカーブの測定や不正な乱視を検出する機能も搭載しています。



特徴 ① より詳細な角膜形状解析

角膜にわずかな不正乱視や歪みがあると眼鏡を用いても視力が出ません。通常のレフケラトメータ（眼の屈折値を測定する従来からの機器）や、細隙灯顕微鏡検査では検出できない異常を瞬時に測定、診断や治療方針の決定につなげます。

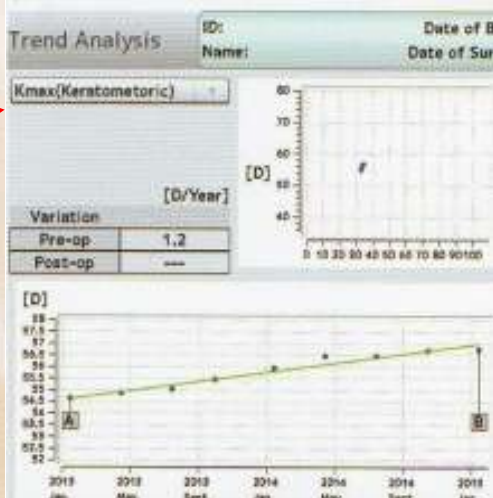
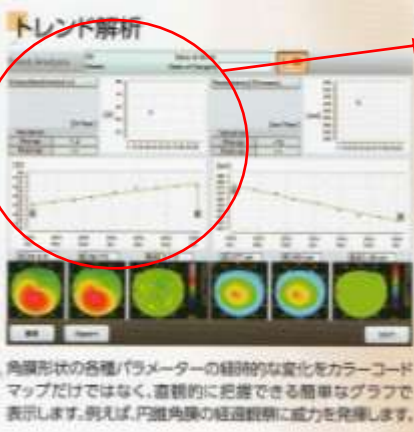
特徴 ② 白内障手術における眼内レンズの選択に有用

近年、乱視の強い症例においては白内障手術の際、乱視矯正用眼内レンズの挿入を行うことが増えてきました。この場合、術後の視力をよりよくするため術前の角膜乱視の状態を詳細に把握する必要があります。本機器は今まで当院では測定できなかった角膜後面の乱視の形状も測定可能で、眼内レンズの選択に威力を発揮します。

特徴 ③ 緑内障診療の一助に

緑内障では、眼の中を循環している房水が流出する隅角の形状が治療方針の決定に重要です。水晶体再建術前後の隅角の変化や、水晶体の厚みの計測も可能です。また、CASIA2が優れている点として、緑内障手術の濾過胞の断層を撮影でき、その形態から治療の方針を検討していきます。

充実した解析機能



水晶体形態解析



このように、多彩な機能を持つCASIA2ですが、情報量は非常に多く、それをいかに臨床に役立てていくかが今後の課題でもあります。



眼科 部長 百野 伊恵

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずは、かかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。